

花粉症対策品種開発技術高度化推進事業（継続）

【平成22年度予算額 81,088（81,088）千円】

事業のポイント

新たな花粉症対策品種の開発を効率的に進めるため、遺伝子組換え技術を用いた花粉発生制御技術を確立するとともに、無花粉スギの早期判定技術や育苗期間の短縮による苗木の早期供給技術を開発します。

- ・ 少花粉スギ品種等の開発に当たっては、これまで雄花着花性を調査し、形質の優れた樹木の中から花粉症対策品種の選抜を進め、137品種（平成20年度末）を開発してきました。
- ・ 開発された品種は成長等の形質が優れているものの、地域的に偏っていることや森林所有者等の造林意欲の向上を図る観点から、より林業的価値の高い花粉症対策品種の開発を効率的に進める必要があります。
- ・ このためには、遺伝子組換えによる花粉形成を制御する技術やDNAによる無花粉スギの早期判定技術、花粉症対策品種を確実に早期に生産するための挿し木等クローン技術など品種開発技術の高度化を図ることが不可欠です。

政策目標

花粉症対策品種の選択の幅を広げることにより、森林所有者等による花粉症対策苗木の造林意欲を向上させ、花粉発生源対策に貢献します。

< 内容 >

（1）遺伝子組換えによる花粉発生制御技術等の開発事業

- ア 組換え樹木の開発に必要な遺伝子の単離と発現機構の解明を行います。
- イ 遺伝子組換え技術を用いた花粉発生制御技術を開発します。

（2）花粉症対策品種開発促進事業

- ア 無花粉スギと精英樹の人工交配による新品種開発を効率的に行うため、無花粉形質の早期判定技術を開発します。
- イ ボトムヒート処理と閉鎖型植物生産システムによる効果的・効率的な新たな育苗技術を開発します。

< 委託先 >

民間団体

< 事業実施期間 >

平成20年度～24年度（5年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]